

令和8年度第1回瀬戸市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体会議 議事録

開催日時	令和8年7月27日（月）午後2時から午後3時50分まで
参加者	委員：別紙委員名簿のとおり 事務局：高齢者福祉課長、課長補佐、地域支援係長、担当主事
場所	やすらぎ会館2階視聴覚室
内容	1 開会 事務局による協議体会議の概要説明 2 議事 (1) 委員長・副委員長の選任 委員の互選により、委員長、副委員長を選任 委員長から協議体の趣旨や目標について共有 (2) 令和7年度瀬戸市施策の報告 - 資料「令和8年度協議体の進め方について」、資料1、2に基づき、事務局から報告 - 資料3に基づき、事務局から生活支援サービスに係る市施策の実施報告 【意見・質問】 (シルバー人材センター) 令和6年度から7年度に、②③の延べ参加者数が減ってしまった理由は何か。 →（事務局）令和7年度は、暑さや会場の都合によるキャンセルが増えたことにより、参加者が減少した。 (基幹型地域包括支援センター) ⑤地域はつらつ講座も令和6年度から7年度にかけ減少してしまっている。地域のつながりづくりという意味でも地域はつらつ講座は重要だが、ケアプランに追われ、注力できなくなっている。地域はつらつ講座の意義と今後の展望について、行政と地域包括支援センターでしっかり共有すべきではないか。 (シルバー人材センター) 地域はつらつ講座が申請する地域団体とはどのような団体か。 →（事務局）地域のサロンや老人クラブ等。小規模なグループがよく活用している。 (瀬戸市自治連合会) 実績値が報告されているが、1回当たりの平均参加者数等が明示されていると比較しやすい。

(瀬戸旭医師会)

④サロン・まごころは3か所配置されているところが2か所に減っているが、バランスよく配置されているのか。

→(事務局) 現在は菱野台と幡野町に配置されている。

(シルバー人材センター)

2か所は近い印象があるが、どういう見解か。

→(事務局) 参加者の固定化という課題があり、見直しが必要である。既存のサロンは縮小し、新しい通いの場を市内5か所に配置していくことを検討中である。

(3) 地域サロン参加者アンケート調査結果報告

第2層生活支援コーディネーター深谷氏より、資料4に基づき、アンケート結果の報告。「地域において居場所(通いの場)が必要な理由」、「通いの場を続けていく上で大切なこと」等について説明。

(資料5(連区別分析結果)を参考として提示。)

(委員長)

- ・ アンケート結果を見ると75～89歳で約8割を占めるようだ。
- ・ 一般的に男性：女性で1：3になる傾向があるが、実際に男性は23%という結果が出ている。男性の参加を増やすための工夫が必要となっている。
- ・ 連区別等のクロス集計をコーディネーターにしてもらっているので、丁寧に分析することが可能。

【意見・質問】

(副委員長)

デイサービスも男性の利用が少ない。男性に対して参加を促すためにどのような声かけをするか等の工夫をしている点はあるか。

→(第2層生活支援コーディネーター) 男性の場合、目的や実施内容が明確になっているかどうかは大事ではないかと思う。クロリティ、麻雀など、やることが明確に決まっていると参加してくれる男性が増えてくる。

→(第1層生活支援コーディネーター) 「デイサービスに行ってお風呂に入ってお飯を食べて帰る」だけでなく、デイサービスに行くことで何を改善させるか、何を目的とするか等が明確だと良いのではないか。

(瀬戸旭医師会)

非常に効果的なアンケートである。全国平均と比較し、瀬戸市は通いの場が少ないという現状があるので、このアンケートを活用し、全市的に通いの場を増や

していく施策を打っていく予定なのか。

→（第1層生活支援コーディネーター）通いの場をやりたい意識のある「人」とコミュニケーションを取り、「場所」のことも考えながら、コツコツと増加、継続に取り組んでいきたい。

（瀬戸旭医師会）

男性参加者を増やす工夫として、世代間交流等、特徴的な通いの場、取り組みをする必要があるのではないかな。

→（第1層生活支援コーディネーター）他市では、昔の遊びを子どもに教える等、世代間交流に取り組んでいる事例もあるのでぜひ参考にしていきたい。

（瀬戸旭医師会）

年金制度、保険、NISA、投資等、他市でもやっていないような要素、内容やテーマを入れていっても良いのではないかな。

（委員長）

通いの場を開きやすいという意識づくり、継続していくためにハードルを低くする等の取り組みが必要ではないかな。

（基幹型地域包括支援センター）

このアンケート結果をいかに通いの場づくりにつなげていくか。こども家庭庁もこどもの居場所づくりを推進しているので、福祉の垣根を越えた取り組みが必要ではないかな。

→（第1層生活支援コーディネーター）ティア新瀬戸店で、よりどころ運営者の交流会を実施予定。また、水北町にあるこども食堂が高齢者の利用も多く、多世代交流の拠点となってきた。全国的にもこども食堂の存在がそのような居場所になっており、支援をしていきたい。

（瀬戸市自治連合会）

地域力活動にも参画しているが、今回のアンケート結果は、自身の地域力活動における男性の利用者の状況と同様の結果と感じており、地域力においても同様の工夫、取り組みが必要と思う。

(4) 令和8～10年度検討事項について

資料「令和8年度協議体の進め方について」に基づき、事務局から、今後の進め方について報告。

資料8、9に基づき、事務局から、地域課題の分析結果について報告。

	(委員長) 広範性の違いはあるが、深刻度が高いAとCの課題は、解決に向け取り組むべき必要性が高いものである。 【意見・質問】 (瀬戸市民生委員児童委員協議会) 民生委員としても、地域貢献していきたいと考えているが、地域における担い手不足がなかなか解決できないことが課題である。 3 その他 事務局から、「瀬戸市暮らしの便利一覧（2026年度版）」「生き生き！スマイルシニア（2026年度版）」を紹介。 【意見・質問】 (瀬戸市シルバー人材センター) スマイルシニアの部数に余裕があれば、シルバー人材センターでも周知していきたい。 (基幹型地域包括支援センター) 在宅医療・介護連携推進協議会の連携推進部会でも、医師の方が地域資源のことをあまり知らないため、支援が必要な方へ情報が届かないという声もあったので、医療機関と連携し、地域資源の周知を図ってはどうか。 (地区社協会長連絡会) 老老介護も大きな課題となっており、介護者側の支援も必要だと感じる。 (副委員長) 男性介護者ほど孤立しがちな傾向があるので、支援が必要。 (事務局) 認知症家族交流会、本人交流会を実施しているので（毎月広報せとで掲載）、支援を進めていきたい。 4 閉会 次回協議体会議は、10月下旬から11月上旬を予定。
--	--